

StarBEDによる大規模通信テスト／仮想環境を構築することで ネットワークモニター品質管理ソフトウェアの大規模な実証実験が可能に

研究テーマ

ネットワークモニター品質管理ソフトウェア大規模通信テスト

研究実施機関

EIZO株式会社



研究の概要

- NICT総合テストベッドを利用することで、サーバーソフト（RadiNET Pro）に多数のクライアントソフト（RadiCS）が接続された環境を疑似的に再現する。
- サーバーソフトとクライアントソフト間の通信において、性能面に関する使用上の問題の有無について確認することを目的としている。

NICT総合テストベッドを 活用した研究成果

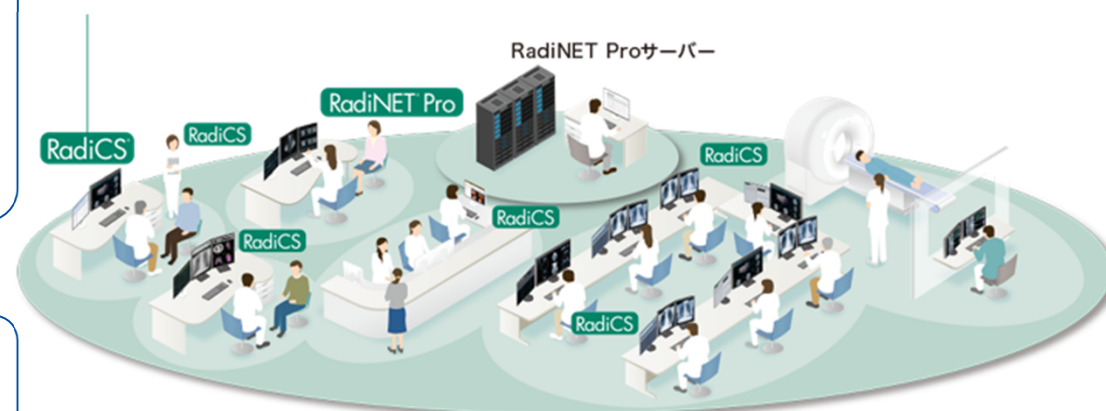
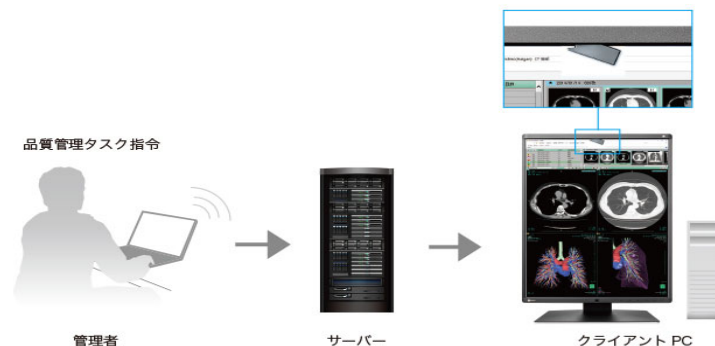
EIZO株式会社の医用画像表示モニターは、**日本国内のみならず、世界的にも高いシェアを占めている**。医用画像表示モニターは、僅かな表示の崩れが誤診に繋がるため、**品質管理が非常に重要**となってくる。そこで同社は、病院内の医用画像表示モニターの品質管理を、院内ネットワークを活用し効率的に一元管理するソフトウェアRadiCS/RadiNET Proを提供している。

本プロジェクトでは、**自社環境で構築することが困難であったテスト環境をStarBEDを利用して疑似的に構築した**。具体的には、大病院におけるRadiNET Proを導入を想定し、500台のモニターが動作しているような試験環境を構築しテストを実施した。この結果、**通信機能が設計通りに動作し、性能面で問題ないことを確認**することができた。

NICT総合テストベッドを 活用した研究の今後の展望

ソフトウェアのバージョンアップや、AI等を用いた膨大な計算が必要になった際に、再度テストベッドを利用したいと考えている。

キャリブレーションセンサー



出典：EIZO株式会社からの提供資料